

山梨県富士河口湖町の富士ヶ嶺^{ふじがね}開拓は、富士山の北西麓で本栖湖の南に位置する。標高 880～1260m の起伏の多い高冷地だ。

46 年から開拓が始まり、増反^{かや}者や満州開拓からの引揚者など 360 戸が入植した。

当初は、見渡す限り一面萱^{かや}の生い茂った荒地だった。中でも一番苦勞したのが水の確保だった。開拓地内には若干の湧き水はあったものの、晴天が続けばたちまち枯渇してしまうほどの水量だった。地下水探査も行われたが、地下水は無いことが確認されてしまった。

雨水利用しか方策が無く、雨の日にはあらゆるものに雨水を溜め、一滴でも多く水の確保に努めた。

どうしても水は必要なので、水源を本栖湖に求め、水道が完成したのは 65 年で、20 年に及ぶ水問題に終止符が打たれた。

入植当初から大根の生産は好調で、高冷地なので他産地より早く出荷ができて味も良いことから「富士ヶ嶺大根」は人気を博した。

48 年に富士豊茂開拓農協が設立され、酸性土壌改良事業などが行われた。

しかし、度重なる冷害、風害により、入植者が 150 戸まで減少し、54 年頃より営農形態が酪農に移行していった。

61 年に、畜産主産地形成事業の実施計画が策定され、草地改良や乳牛導入事業などが農協主体で行われ、酪農発展の礎石となった。

78 年には入植 30 周年を記念して巨大な「開拓之碑」が、96 年には「五十周年記念」碑が、現クレイン農協富士豊茂支店の北側にある丘に建てられた。

富士ヶ嶺（ふじがね） 19-430-1

- ①調査日 令和6年1月26日
②所在 山梨県南都留郡富士河口湖町
③地区の沿革 碑文に記載あり
④設置年月日 昭和53年6月10日
⑤設置者 富士豊茂開拓農業協同組合
富士ヶ嶺区、30周年記念事業会の三者の建立

⑥碑文（表面） 開拓の碑

（高さ2.1m、横4.7m、将来の発展を祈る末広がり扇型）

（副碑表） 開拓の記

富士ヶ嶺はその昔稚武彦が通ったと云われる若彦治と戦国の武将が往来した中道路との間に位置し、面積1,596町歩、降雨量3,000耗、気温最高30度最低零下18度、標高最低880米最高1,260米、南西に傾斜した起伏の多い高冷地である。

昭和20年終戦により国は極度に逼迫した食糧対策のため特別措置として開拓政策を行うことになり、国、県有地の開放が行われた。一億只茫然自失の時に戦前軍用地であったこの地に第二の故郷、永住の地を求め県内の二三男、海外の引揚者及各地の戦災者が集い開拓の鍬が打ちおろされた。而し住むに家なく歩くに道なく、一面の丈なす芒ヶ原、飲む水すらない不毛と思われる地、幾千年も人を受け入れなかった自然は又開拓者にも厳しかった。

当時は耕種農業のため冷害風害に打ちのめされ昭和28年29年には収穫皆無が続き、当初360戸の入植者はついに150戸に減少した。

而しこの地に踏み止まった人々は営農の転換を図り酪農を取り入れて成功を収めた。今や行政機関の特別の配慮と開拓者のたゆまざる努力により公共施設、生活基盤も逐年整備されつつあり、富士ヶ嶺の前途洵に洋々たるものがある。開拓30周年を迎え更に情操豊かな理想郷をめざして茲に開拓の碑を建立する。

⑦碑文（裏面） 昭和31年3月25日土地売渡時の入植者であって、その後開拓者として8年以上居住した者の名前が刻まれている。

（副碑） 昭和53年3月31までに成人に達し、富士ヶ嶺に居住している者の名前が刻まれている。

⑧現在の状況 農協の北側、地区中央の小高い丘の上に建立されている。